

▽個人募金：17万1437円（29万1559円）
 配分結果は、低所得世帯が1677人（635世帯）で1040万4000円、障害者

市民の環境意識向上へ

第8回環境活動コンテスト

事業所や市民団体など
 の環境保全に関する「第8回環境活動コン



市民団体など4団体が環境保全活動について報告したコンテスト

▽西日本グループカップ

▽文筆で4強国七

・児童関係などの福祉施設が98人（18カ所）で91万5000円、総額で1131万900

「テスト」が3日、富士市藤原町のロゼシアターで開かれた。環境マネジメントシステムに関する国際規格、環境ISOを取得する県内外の事業所など約30社でつくる環境ISO研究会（水野進二代表）が主催した。

今回は約60人の東郷者を前に、市民団体など4団体が取り組みやその成果に関するプレゼンテーションを行い、環境保全活動への理解を広げた。

4団体のプレゼンを前に水野代表は、事業所部門の「酸化炭素（CO₂）削減や廃棄物減量化の努力が成果を上げている。一方で、家計（市民）部門のC

0円となった。実績総額との差は市社協一般会計から補ってんしていくことになる。

〇、排出量などが増加傾向にあるという調査結果を報告。コンテストで実際に活動している団体の活動に着目し、市民サイドの環境意識を高めてほしい」と呼び掛けた。

NPO法人富士市のごみを考える会は、EMぼかしを活用した牛ごみの資源化など、同会が発足以来続けている活動について発表。活動の3つの柱として▽学習▽普及啓発▽実践の3つを挙げた。

普及啓発については、小学校でEMぼかしを使って実際にたい肥をつくる授業を行ったり、牛ごみ資源化講座、といった講演会活動を展開したりしていると紹介。洗って再利用できるリユース食器の貸し出しといった実践活動についても伝えた。

富国紙業（富士市原

田）は、廃食用油からBDF（生物由来油でつくられたディーゼル燃料）を精製する自社技術を生かした市民活動について報告。廃食用油の回収拠点に一部の小学校を選んだ、市との協働事業に取り組んでいるとした。

廃食用油を再利用することでごみの総量削減につながるほか、トラックなどの燃料として利用した際に、排気ガスに含まれる浮遊粒

介護保険事業者
 連絡協が発表会
 ノイで12日
 富士市介護保険事業者連絡協議会は12日（土）、第8回富士介護サービスマン研究会を同市永田町のペアステージ ノイで開く。午後2時～5時半。入場無料。

市内で介護保険にかかわる事業者が、サービスマン研究会を目的に日ごろ取り組んでいる研

究家で元SBSアナウ

子状物質が減るといった効果を挙げ、「油ごみをゼロにして空気もきれいになる」と環境保全効果を強調した。

このほか、「マイはし」の利用を促すためにはし袋や、洗剤を使わずに食器の汚れを落とすアクリルたわしを製作している沼津市の障害者就労支援施設や、休耕地の有効利用の研究を進める富士常葉大の活動報告も行われた。

研究成果の発表を行うのもので、テーマは、医療連携について。発表を行うのは次の5事業所。

▽永遠の家（小規模多機能居宅介護）▽グループホーム風（グループホーム）▽セントケア富士（訪問介護・入浴）▽みずほ複合ケアセンター（ショートステイ）▽かたくら明和園（居宅介護支援）

研究発表の前には、ボイスセラピー実践研究家で元SBSアナウ